

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 氷見市立朝日丘小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)
所在地 〒 935-0023 富山県氷見市朝日丘3-1
E-mail asahigaoka-es@tym.ed.jp
Website http://www.asahigaoka-e.tym.ed.jp/
幼児児童生徒数 男子 119名 女子 131名 合計 250名
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

朝日丘小学校は、ユネスコスクールに承認されて 7 年目を迎えました。1 年目、2 年目は、主に社会科の学習に ESD (持続発展教育) を位置付け、研究を進めてきました。3 年目からは、「知る」、「育む」、「為す」を 3 つの柱に、生活科や総合的な学習の時間に ESD に取り組んできました。

本年度は、ESD で育てたい子供像を明確にして様々な実践をすることで、子供たちがふるさとのよさに気づき、ふるさとを愛する心情を育んでいきたいと考えました。それらの中から、4 学年の実践について紹介します。

<実践事例> 4 学年 総合的な学習の時間

「守ろう 伝えよう わたしたちの宝物」
～大切な命、大切な地域、大切な地球～

1 ESD との関連

この單元では、ESD 推進コンソーシアムでも取り上げられている事柄の一つでもある地球温暖化の問題に目を向け、4 年生なりに問題に対してできること

を自ら考え、実行する子供を育てたいと考え、本実践に取り組みました。

2 実際の活動の様子

地球温暖化防止活動推進員の方に来ていただき、地球温暖化について学習することから始めました。推進員の方から教えていただいたことを基に、図書室の本やインターネット等で調べ学習を行いました。そして地球温暖化は人間が利便性を追求した結果生まれ出た問題であることに気付き、地球温暖化を止める「とやま環境チャレンジ10」に家族とともに取り組みました。約1か月の取組を振り返り、家族で声を掛け合って頑張れた一方で、取組の内容が、家族の協力なしでは難しいということが課題として出てきました。そこで「テレビを見る時間を減らす」「寝るときは真っ暗にする」等、自分たちだけでもできる取組「朝小チャレンジ5」を考えました。そして1週間集中的に取り組み、その中でもおすすめの方法についてまとめ、3年生に発表しました。さらに、ESD 富山シンポジウムにおいて、自分たちの今までの取組の成果と課題を多くの人に伝えました。



サンライズ活動



環境チャレンジ10

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

■ 1. 環境	■ 2. エネルギー	■ 3. 防災	□ 4. 生物多様性
■ 5. 気候変動	■ 6. 国際理解、文化多様性	■ 7. 地域の伝統文化、文化遺産	■ 8. 人権・平和
■ 9. 健康・福祉	■ 10. 食育	□ 11. 持続可能な生産と消費	□ 12. 貧困
□ 13. エコパーク	□ 14. ジオパーク	□ 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
□ 16. ジェンダー平等	□ 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながり尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

北陸における循環型社会形成に向けたESDの推進 地球温暖化を止めるため「家族みんなでチャレンジ！」 教員のためのESDガイドブック

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程 (指導計画) にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。(200～300字程度)

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

<p>持続可能な開発のための教育 (ESD) を通じて育てたい資質や能力を明確にし、自分で、あるいは協働して、問題を見出し解決を図っていく学習の過程を重視した教育課程を工夫している。道徳教育では、地域素材を生かした「地域学習」を行い、ゲストティーチャーを招いたり、環境教育では、身近な自然環境に触れる活動を通して、環境に対する感受性を一層豊かにし、地域の自然や命の大切さや環境を守っていく必要に気付かせたりしている。人権教育では、望ましい言語環境づくり、励まし合う温かい人間関係づくりに努め、共に学ぶ楽しさを味わい、成就感が得られるように、褒めたり認めたりする機会や自己決定の場を増やすようにしている。</p>

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項 1-4 に対応

学年の発達段階に応じて、バランスよく取り組めるようにしている。総合的な学習の時間を例に挙げると、3年生においては、地域のよさを見付ける活動、4年生では、環境に目を向け、環境を守っていこうとする活動、5年生では、自分を見つめ、地域の人と関わる活動、6年生では、未来に目を向け、自分にできるボランティア活動に取り組んでいる。また、ESDカレンダー（総合においての年間計画）を作成し、他教科との連携も図っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

教育計画に位置付いた教育活動に対して、それぞれの担当者がESDの視点を取り入れ、中間評価及び年度末を行い、次年度に生かすようにしている。成果としては、これまでの教育活動をESDという視点で捉え直すことができたことで、職員間で、ESDに対する理解を深めることができた。課題としては、学年間でテーマが異なるので、全学年を通して、環境を大切にしていこうとする心情を育てていけるように活動を工夫していく必要がある。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

今年度の取組を「平成29年度ESD富山シンポジウム」において、発表する機会があった。参加した4年生の子供たちは、大勢の参加者を前に堂々と発表することができた。発表後の質疑応答では、これまでの取組を振り返り、的確に答える子供の姿が見られた。他校の参加児童からは、「『わたしたちにできることベスト1』で、『ねる時は、まっくらにする』という考えが、とてもおもしろいと思いました。自分もやっていきたいと思いました。」また、参加保護者の方から、「自分の生活を振り返ってみると、身近にいろいろな方法で地球温暖化を防ぐ方法がまだまだあることを改めて思いました。家庭でできることを取り組んでみたいです。」といった声が寄せられ、自分たちの取組に対して大きな自信となった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

4年生の「環境チャレンジ10」を実施するにあたっては、富山県地球温暖化防止活動推進委員の渡辺氏より温暖化についての基礎知識を学ぶとともに、「環境チャレンジ10」の取り組み方を教えていただいた。また、「ESD 富山シンポジウム」に向けて、金沢大学の松本教授より、昨年度までの問題点やどのような形で発表を行うかについて説明をしていただいた。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成 (200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

「ESD 富山シンポジウム」への参加により、県内のユネスコスクールの取組について理解するとともに、自分たちの取組も知ってもらうことができた。地域のよさの再発見や、地震が来た時の行動の仕方、自分たちと同じように温暖化防止等、様々な取組が紹介された。今年度は、外国語活動の県の推進指定を受けているために参加できなかったが、例年、県内のユネスコスクールの ESD 実践発表会や公開授業を参観したり、自分たちでも取組を公開したりしている。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき (特に強調したい) 内容 (例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化) (200字程度)

※チェック事項 2-5 に対応

これまで、自分と無関係だと思っていた環境、特に温暖化について、調べ学習や温暖化防止活動に取り組む中で、温暖化を防止することの大切さについて理解するとともに、実行し続けることの難しさを感じることができた。そして、温暖化防止を継続していくためには、無理をせずにほんの少しの心掛けが大切であることに気付いた。そして、それを他学年や他校の友達など、周りの人に自信をもって紹介することを通して、環境に対する理解をより深めることができた。

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

ESDの視点で、これまでの教育活動を見直し、次の3つを重点として指導に生かしていく。

ア 自立心、判断力、責任感等の人間性を育む道德教育を重視する。

イ 人や社会、自然環境との関係性を認識し、「関わり」、「つながり」を大切に学習や活動をあらゆる教育の場に位置付ける。

ウ 教師と子供が共にユネスコスクールとESDの考え方を共有し、より深まりを求めて進む。

また、指導の重点を達成するために、「知る」「育む」「為す」べき内容として、「知る」ことにおいては、「環境・国際理解・防災・地域学習」に取り組み、「育む」ことにおいては、「命の大切さ」をベースに人との関わりを大切にする。そして、「為す」ことにおいては、ESDパスポートを活用し、実践の喜びと継続の意欲をもたせていく。